

林業を成長産業に



本市は、総土地面積の約75%を森林が占め、本格的な伐期を迎えているスギ、ヒノキをはじめ、全国的にも珍しいといわれる群生したシイの木など、豊富な森林資源を有しています。こうした資源を有効に利用し、次世代に良好な状態で継承していくため、林業の成長産業化に取り組んでいます。

長門市の山林の状況

本市の森林資源は、戦後に植栽されたスギ、ヒノキなどの人工林が大きく育ち、木材として利用可能な時期を迎えようとしています。農業でたとえると、春に植えた水稻が実り、秋の収穫期を迎えようとしている状態です。

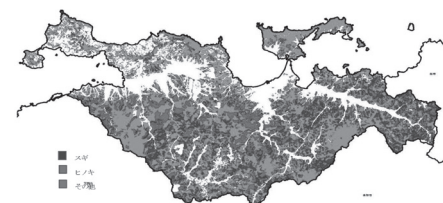
人口林の面積は13、379haと山林の46%を占め、材積は5,710千m³となっており、この材積は年々成長を続け、増加しています。これまでの林業は育てることが中心でしたが、これからは「切って、使って、植える」

が生じるようになります。

という、森林資源を循環させて利用していく時代へと変わっていかねばなりません。

一方、本市では小規模な森林所有者が多く、木材価格の低下による林業の低迷、高齢化や森林所有者の世代交代により、森林への関心が薄れてきています。また、森林を管理するための担い手も不足している状況です。

このため、公益的機能や環境保全機能を維持しながら、伐期を迎えている本市の豊富な森林資源を利用し、山林所有者へ利益を還元することで再造林を行い、森林資源を次世代へと循環させる長期的視点に立った森林づくりが求められています。



▲市域の約75%を森林が占めている

成長産業化への取組

本市では、適切な山の管理、林業の担い手不足の解消、新たな流通販売体系の確立など林業の課題に対応するために、平成29年5月に「林業成長産業化地域構想」を策定し、林野庁の林業成長産業化地域モデル事業の林業成長産業化地域（全国16カ所）に選ばれました。平成30年1月には素材生産者や製材加工

業者など関係者で構成された長門市林業・木材産業成長化推進協議会を設立しました。

森林に占める市有林の割合が16%（全国は5%）と高い本市の特性を活かし、市有林を核とした私有林との継ぎ目のない経営により、素材生産の大幅な拡大と条件適地での再造林と合わせ、所有者に利益を還元する新たな林業成長産業化の仕組みや体制を構築します。

また、施業の効率化・低コス

ト化、担い手の確保・育成、新たな流通販売体系の確立を推進するための新たな法人を設立します。

林業・木材産業の発展などを目指した「長門市林業・木材産業振興大綱」を柱として、川上から川下まで一貫した取組を展開することで、豊かな森林資源の活用と未来につながる森林づくりを目指します。

問い合わせ 農林課 林務係
Tel 23 114 2

6つの取組

①中核となる組織の設立

林業・木材産業の成長産業化に向け、関係団体と協働し、長期的な視点に立って、森林全体を見据えた新たな法人の設立を進めます。

③持続的な森林経営

森林資源の有効活用や素材生産の拡大などにより持続的な森林経営が進むよう、森林施業の合理化や共同化など効率的な作業システムの構築を進めます。また、森林から得られる利益を所有者に還元できる経営手法の開発・導入を目指します。

⑤サプライチェーンの構築

公共施設などへの地元材の利用や、低品質・未利用材など木質バイオマスのエネルギー利用などによる需要拡大を目指します。あわせて製材、加工、流通、販売体制の整備など、サプライチェーンの構築を進めます。

②森林資源の把握

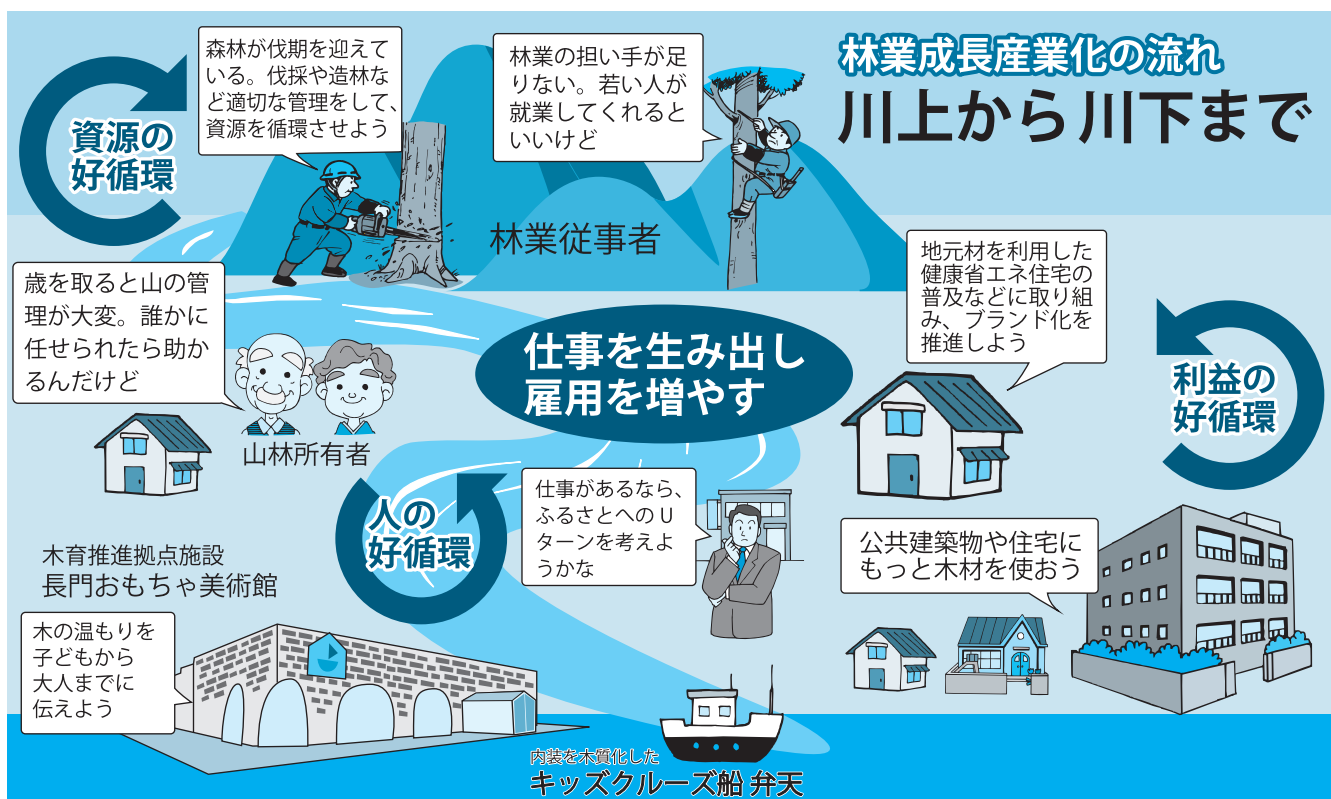
森林資源を効果的に活用するため、境界の明確化、ICTを活用した資源量の把握、森林所有者の意向把握など、森林資源の把握に向けた取組を推進します。

④担い手の確保・育成

新規就業者、林業経営者、林業認定事業体、指導林業士、林研グループ、女性企業グループなどの確保・育成に努めます。また、新規就業者などの募集から研修、就業、起業、さらには定住に至るまで一貫した支援体制を整備します。

⑥ブランド化の推進

健康省エネ住宅など地元材を利用した個人住宅の普及など、市民や事業者と協働し、地元材の利用促進を図るとともに、木材、木製品、住宅などのブランド化に向けた取組を進めます。



これまでの取組

本市では、公共施設の建設に木造・木質化を取り入れたり、生活の中に木を取り入れる「木育」を推進するなど、林業を成長産業化する取組を進めています。これまでの取組を紹介いたします。



▲油谷小学校（H26 年完成）

公共施設の建設に地元材をしっかり活用

現在建設中の長門市役所本庁舎をはじめ、これまでに油谷小学校や三隅中学校、市営住宅田屋床団地、ながとスポーツ公園管理棟など、公共施設の建設に地元材を活用し、木の温もりを感じられる施設としています。地元材を活用することで需要の拡大を図っているところです。



▲現在建設中の長門市役所本庁舎内部



▲ながとスポーツ公園管理棟（H29 年完成）



▲市営住宅田屋床団地（H28 年完成）

木育推進の拠点として長門おもちゃ美術館を開館

平成 30 年 4 月に、木育推進拠点施設として道の駅センザキッチン内にオープン。100 種類以上の木のおもちゃやキッズクルーズ船「弁天」など、木の温もりに触れられる美術館として、開館以来 3 万人以上の来館者を迎えています。



▲木の温もりに触れられる美術館

林業振興担当の地域おこし協力隊を配置

平成 30 年 9 月に林業振興担当の地域おこし協力隊として西口直樹さんが着任しました。三隅林業研究グループの支援を受け、三隅地区で自伐型林業を目指し、活動しています。



▲活動中の西口隊員

森林体験学習

次代の担い手となる子どもたちを対象に、森林の大切さやそれを支える林業の重要性などの理解促進を図るため、地域の林業研究グループにより森林体験学習が実施されています。



▲竹を伐採し、器をつくる

長門市林業・木材産業成長産業化推進協議会を設立

平成 30 年 1 月に、本市の林業・木材産業の成長産業化を目指し、中核となる組織づくりと市への提言を行うことを目的に、素材生産者や製材加工業者など関係者で構成された協議会を設立。協議会の中に新法人の立ち上げやサプライチェーン構築などの 3 つの専門部会を組織し、林業・木材産業の成長産業化に向けた取組が進められています。



▲関係者で意見を出し合う

森林所有者のみなさんへ 平成31年4月から新たな制度（森林経営管理制度）がスタートします

森林の適切な管理が行われないと、土砂災害の防止や水源涵養などに影響を及ぼすことが懸念されます。このため、平成 31 年 4 月から「森林経営管理制度」がスタートし、森林の適切な経営や管理を進めることとしていきます。

「森林経営管理制度」とは

- ① 森林所有者の皆さんが、所有している森林を適切に経営管理していかなければいけないことを明確化しています
- ② 森林が適切に経営管理されていない場合、市から森林所有者の皆さんに今後の森林の経営や管理についての意向を調査します
- ③ 森林所有者の皆さんが自ら経営や管理を続けることが難しい場合には、市は森林所有者の皆さんと相談し、必要に応じて今後の経営管理計画を定め、計画を実施するための権利を市などに設定（経営管理を委託）していただきます
- ④ 市は、森林の経営管理を実施するため、他の林業経営者に経営を再委託するか、直接管理します

木育を取り入れた長門型プログラムについて

木育円卓会議を開催

木育円卓会議は、森林や林業に関わる「木の専門家」と、行政・子育て支援関係者など「暮らしの中で木を活かす人」が一堂に会して円卓を囲み、木育に取り組むための仕組みづくりや協力体制について意見交換する会議です。

2 月 12 日（火）、長門おもちゃ美術館を会場に第 3 回目となる木育円卓会議が開催され、「木育を取り入れた長門型プログラム」について話し合われました。（一部を抜粋して掲載）



岡村 吉永さん
（山口大学教育学部教授・同附属小学校校長）



岡藤 明史さん
（NPO 法人つなぐ理事長）



若林 英樹さん
（シンフォニア岩国館長兼山口県立美術館・浦上記念館ゼネラルマネージャー）



中原美可子さん
（長門市職員）



井上 桂さん
（株式会社 FEEL 代表取締役）



福田 哲郎さん
（深川小学校教頭）



コーディネーター
中谷 篤俊さん 山本 里美さん
（ながとてび）（NPO 法人人と木）

子育てをする中で、木育が良いとされる理由はどのようなところがあるのでしょうか。

井上 弊社では、自然と子どもたちをつなげる活動を行っています。森を歩くだけの日もあれば、時には椎の実を拾ってきて炒って食べたりすることも。子どもたちに椎の実を美味しいと言わせる必要はなく、食べてみて美味いということを確認させる、体験から得る学びが大切です。自然界にはそういった学びの瞬間であったり、問題点、疑問点を学びにつなげられるような素材がたくさんあるので、いかに指導者や大人、保護者が子どもたちの疑問や要求に寄り添ってあげる時間を持てるかがすごく大事だと思います。

岡村 これからの子どもたちに必要なのは特に考える力、創造する力です。小さい子どもが積み木で遊ぶ時、四角いブロックを車と見立てたり、家と見立てたり、「見立てる」ということが子どもの観察力を育てますし、発想力を育てていきます。それがだんだん、素材に対する観察、木目を見ていくとか重さを比べてみるとか、そういうと

ころから子どものこれから生きていくために必要な力が育つので、ぜひ家庭でも一緒に積み木で遊んでいただきたい。

長門市の特長を活かした木育プログラムは、どういったものが考えられますか。

若林 音楽は形のないものですが、木は形があり、触って指先で感じるすることができます。形のないものもあるものを一緒にして体験できるようなのが例えばいいなと感じました。例えば楽器を木でつくって、みんなで演奏してみると、より五感を使えて面白いと思います。

井上 長門市は海と山の距離がすごく近い。そういった意味では海の活動と山の活動を密接につなげやすいエリアだと感じています。森と海がどうつながっているかという教育はすごくわかりやすくできると思います。岡藤 長門市の自然すべてを感じてもらいながら、子どもたちの将来の人間形成につなげることが一番大事。海と山の人が協働してできる子どもたちのためのプログラムが改めて必要と感じます。

テレビ放送のお知らせ

木育円卓会議は、ほったちゃテレビで放送予定です。会議全体の様子を紹介します。

放送日（予定）

4 / 1（月）19 時～
※同一の内容で、複数回放送されます

これから木育を進めていく上で、私たちはどのように行動していくべきでしょうか。

中原 私たちの世代は、木にどんなものがあるか知らないことが多い。木育を通して、子どもたちに教えるだけでなく、自分たちの学び直しの機会になるのではないかと思います。大人になっても学ぶ姿勢が木育を広めていけるきっかけになるかも。

福田 例えば出張おもちゃ美術館として、学校の中で木育が体験できたり、参観日に合わせて行うことで、子どもと保護者が一緒に体験してもらうことができる。そうすれば子どもだけでなく大人にも木育が広がっていくと思いますし、未来につながることを考えれば、子どもたちがいかに楽しさを伝えていくかだと思っていますので、保護者と一緒に体験することが大事だと思います。